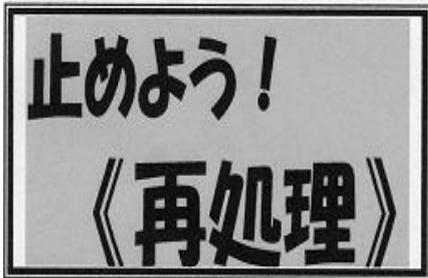


**三陸の海を放射能から守る**  
**岩手の会** (略称) **三陸の海・岩手の会**  
 郵便振替 02240-5-102650  
 ホームページ 《再処理/岩手の環境》  
<http://sanriku.my.coocan.jp/>  
 《本紙の全バックナンバー掲載》

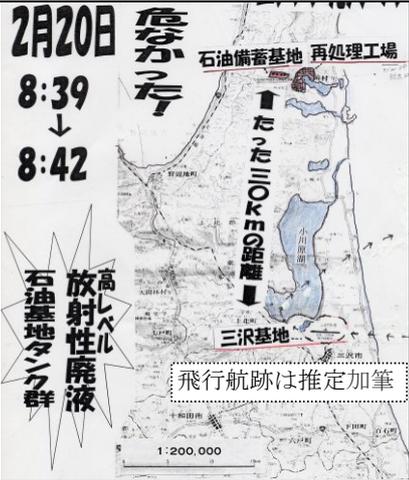


《**天恵の海**》  
 2018(平成 30)年  
 3月18日  
 第187号  
 編集事務局 S.Oshida  
 TEL・FAX 019-623-1636

**米軍三沢基地 F16戦闘機**

**エンジン出火・タンク投棄事故**  
**北方30キロに六ヶ所再処理工場**  
**貯蔵槽に約52京ベクレル(セシウム137)の放射能**

**危なかつた高レベル廃液**



『三沢米軍燃料タンク投棄事故』  
 《私達が27日の院内集会で追加提示した資料》から

去る二月二〇日朝八時四〇分ころ青森県三沢の米軍基地を飛び立ったF16戦闘機のエンジン付近から出火。主翼下の燃料タンク二本を小川原湖に投棄したうえ、同基地に緊急着陸した。パイロットを含めて怪我人はなかつた。小川原湖には約十隻のシジミ漁船が操業していた。  
 (朝日新聞二月二日版)

三沢基地から北方約三〇キロに六ヶ所再処理工場があり、国家石油備蓄基地のタンク群があります。この戦闘機はたった三分間ほどの飛行で基地に戻り着陸しました。もし再処理工場や石油備蓄基地に被害を与える事故であつたら深刻な事態に至ります。本紙の今回の記事のように、同再処理工場が貯蔵している高レベル放射性廃液は、福島事故で放出した放射能の約三五倍(セシウム137)もの多量の放射能を含みます。再処理工場に反対して来た私達は、深刻な恐怖を覚えました。(編集部)

**共に考える～ 再処理工場の危機的状況からの脱出策!**  
**大量の高レベル廃液をかかえ、**  
**戦争は 国家破滅への道!**



**まず、早急にガラス固化せよ!**

再処理関連省庁担当者と市民の  
**意見交換会**  
 (報告・その1)

青森県六ヶ所村、茨城県東海村の両再処理工場に溜まっている『高レベル放射性廃液(高放射性廃液ともいう)』は、『一滴で一・三〜一・六億ベクレル(セシウム137)』もの放射能を持つ危険な液体です。この液体が六ヶ所には約二〇〇立方メートル、東海には約四〇〇立方メートルもあり、環境に漏れ出せば想像を絶する巨大な事故となります。今回私達は、この溜まっている『高レベル放射性廃液』は『液体状では危険である。早急にガラス固化するべき』と訴え、政府へ質問・要望書を提出しました。二月二七日、参議院議員会館において、『再処理工場の危機的状況からの脱出策』を市民と政府担当者が共に考える意見交換会を開催しました。出席した省庁担当者二人からの回答を聞き、市民約四〇人と意見交換を行いました。主要なテーマに焦点を当てて報告します。

# 左表の現実を受けとめて話し合おう



## 東海再処理工場の ガラス溶融炉は どうなっているか

### これだけは聞きたい 質問①

東海再処理工場の高放射性廃液のガラス固化はどこまで進んだのか？ 暗礁に乗り上げているジュール熱方式（LFCM方式）はやめて、英仏式のキルン誘導加熱方式（AVM方式）に変更してはどうか？

原子力研究開発機構（JAEA）ガラス固化技術開発部担当者

<b>六ヶ所再処理工場</b> (2013. 4 現在)
約52京ベクレル・202m <sup>3</sup>
◇広島原爆の死の灰の 約5800倍
◇福島原発事故の放出量の 約35倍
<b>東海再処理工場</b> (2013. 2. 1 現在)
約120京ベクレル・394m <sup>3</sup>
◇広島原爆死の灰の 約1万3300倍
◇福島原発事故放出量の 約80倍
(注) セシウム137で比較

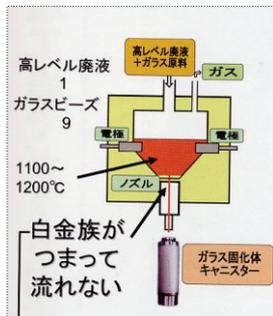
## 議論の前提としての 高レベル放射性 廃液の数値です。

(政府・事業者公表データ)

◇新たに五九本製造平成四〇(二〇二八)年までにすべての高レベル廃液をガラス固化体にする。平成二八年一月から現在までに廃液を約三四立方メートル、五九本のガラス固化体を製造した。平成三〇年一月三十一日で、廃液残量は三三七立方メートル。計画では一〇〇本作る予定であったが五九本にとどまった理由は、溶融炉そのものの欠陥ではなく、付帯する機器による。白金族の堆積抑制については計画的更新と運転の改良による対策を立てて推進してゆく。

◇白金族問題は「炉底低温運転」で解決する  
トラブル解消方法として、溶融炉の底部のガラスの温度を低温に維持することでガラスの粘性を増加させ白金族元素の沈降を抑制する。「炉底低温運転」を行う。その後炉底からガラスを抜き出す際に、短時間で炉底のガラスを加熱し白金族元素をガラスと一緒に抜き出すという方法をとる。また、運転にもなると白金族元素が徐々に溶融炉内に堆積するが、溶融炉の運転に影響が生ずるまえに電極間の抵抗値により白金族元素の堆積を検知し、運転管理する。さらに、定期的に炉面洗浄を行う。

◇ジュール熱方式で行く  
JAEAと原燃は、ジュール熱方式(LFCM方式)によってガラス固化体を安全に進めてきた実績が有り、AVM方式は海外に於いて実績がある。方式を変えるには新規施設が必要となり、運転員の新たな養成も必要である。総合的に考えると今後、今採っている方式によって進める事が、安全に、早期にガラス固化が進められると考えている。



## 《私達が提示した資料》 「ガラス溶融炉」

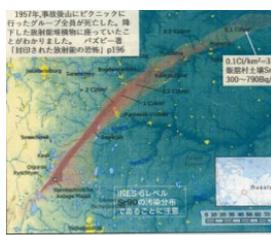
## 市民側からの再質問 や意見(要旨)

これだけは聞きたい  
質問②  
六ヶ所再処理工場は竣工が三年延期となった。この三年の間に、まず、高レベル放射性廃液をガラス固化体にしてしまおうべきだ。

## 六ヶ所再処理工場審査 三年延期の間の ガラス固化

市民(茨城)  
ガラス固化終了が二〇二八年では遅い  
東海再処理工場は三〇年運転し一〇年放置し、廃炉にするにはこれから七〇年かかるという。ガラス固化だけでもあと一〇年かかる。当初そのような説明は全くなかった。この先も事故の心配が続く。住民は憤り、いっばいだ。ガラス固化体の保管も大丈夫か。  
JAEA担当者回答  
保管は六三〇体まで出来、現在三〇六体保管している。これに四二〇体製造されると保管容量が超える自治体と相談しながら進める。固化体は放射能があり崩壊熱を発生する。現在空気による強制冷却をしているが、今後自然空冷として行く。

(説明) 一九五七年九月にロシアマヤーク再処理工場の廃液タンクが爆発し、強烈な放射能が放出し、広範囲に汚染された。ストロンチウム90の汚染は約二〇〇\*に渡って帯状に広がり住民が住めない地域となった。ソ連崩壊後に詳細が報ぜられた。このような事故を教訓に、高レベル廃液は速やかにガラス固化し、事故を未然に避けるべきだ。



## 《私達が提示した資料》 「ウラルの核惨事」

回答(要旨)  
原子力規制庁核燃料審査グループ担当者  
新規基準審査は竣工を三年延期して進めるといふことであり、現在、申請されている再処理工場の一連の適合性審査を行なっている。ガラス固化のみ早めることは出来ない。今は冷却機能を確認して行くことが大切と考える。